

新規事業採択時評価結果（令和3年度新規事業化箇所）

担当課：道路局環境安全・防災課
担当課長名：荒瀬 美和

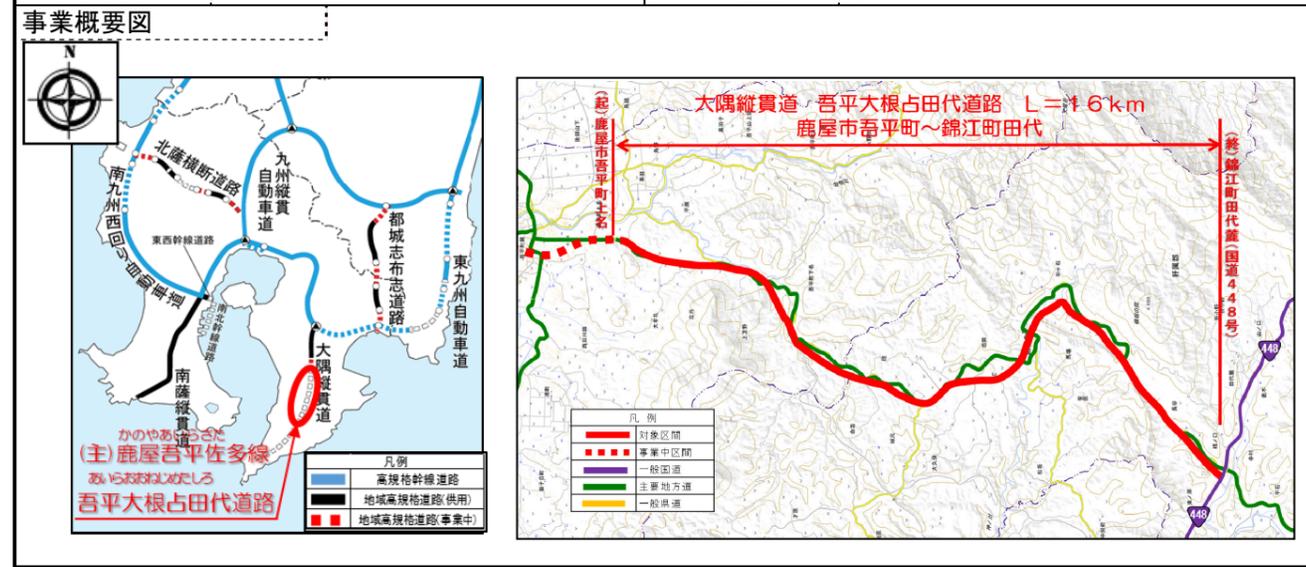
事業の概要

事業名	地域高規格道路 大隅縦貫道（Ⅰ期） 主要地方道 鹿屋吾平佐多線 吾平大根占田代道路	事業区分	地方道	事業主体	鹿児島県
起終点	自：鹿児島県鹿屋市吾平町上名 至：鹿児島県肝属郡錦江町田代麓	延長	16 km		

事業概要
大隅縦貫道は、鹿屋市から錦江町を經由し、南大隅町に至る延長約53kmの地域高規格道路である。吾平大根占田代道路は、大隅縦貫道の一部を構成する区間であり、平成26年12月に供用された串良鹿屋道路や国道220号等の現道利用区間と一体となって広域ネットワークを形成し、地域の産業・経済の活性化に大きく寄与する道路である。

事業の目的、必要性
肉牛豚の産出額は鹿児島県が全国1位で、県内における大隅地域のシェアは5割を占める。大規模畜産施設が区間の終点に位置し、牛の肥育に欠かせない飼料の安定的な供給が必要であるが、現道の県道鹿屋吾平佐多線については、走行性が悪く、区間内での事故発生や海岸沿いの国道269号と共に災害等による通行規制も多いことから、基幹産業である畜産業への影響を与えている。
当該道路を整備することにより、大隅地域の産業を支援し、東九州自動車道と一体となって、安全で円滑な広域道路ネットワークを形成し、地域の産業・経済の活性化に大きく寄与する道路である。

全体事業費：約320億円 計画交通量：5,300台/日



関係する地方公共団体等の意見
鹿屋市など大隅縦貫道の沿線の1市4町で構成される「大隅縦貫道整備促進期成会」等から、大隅縦貫道の早期整備を要望されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
—

事業採択の前提条件
 ・ 便益が費用を上回っている。
 ・ 地元自治体や地元団体から早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行が可能な環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.1	総費用 ：226億円 （事業費：224億円 維持管理費：1.9億円）	総便益 ：253億円 （走行時間短縮便益：201億円 走行費用減少便益：45億円 交通事故減少便益：6.8億円）	基準年	令和2年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.2 (交通量+10%)	B/C=1.0 (交通量-10%)		
		事業費変動	B/C=1.0 (事業費+10%)	B/C=1.2 (事業費-10%)		
		事業期間変動	B/C=1.0 (事業期間+20%)	B/C=1.2 (事業期間-20%)		

評価項目		評価	根拠
事業の影響	自動車や歩行者への影響		
	渋滞対策	—	・ 注目すべき影響はない。
	事故対策	◎	・ 交通の転換により、現道の事故の減少が図られる。
社会全体への影響	歩行空間	—	・ 注目すべき影響はない。
	住民生活	○	・ 第2次救急医療施設(大隅鹿屋病院)への搬送時間の短縮に寄与する。
	地域経済	◎	・ 東九州自動車道や九州縦貫自動車道への接続により、志布志港や鹿児島空港などの物流拠点とのアクセスが向上し、農畜産物の物流の効率化や観光客の増加が期待される。
	災害	○	・ 第2次緊急輸送路の機能を強化するとともに、広域災害発生時のリダンダンシーを確保することができる。
	環境	—	・ 注目すべき影響はない。
	地域社会	◎	・ 大隅半島南部地域と鹿屋市間の交流・連携の強化が期待される。
事業実施環境		◎	・ 『かごしま未来創造ビジョン』において、重点的に推進する事業として位置づけられている。 ・ 鹿屋市など大隅地域4市5町で構成される大隅総合開発期成会等より大隅縦貫道の早期整備を要望されている。

採択の理由

事業主体である鹿児島県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.1と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、大隅地域の基幹産業の振興に対する支援、物流効率化の向上、交通事故の減少が図られるなど、当該事業の整備の必要性、効果は高いものと判断される。
 以上により、本事業は令和3年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。